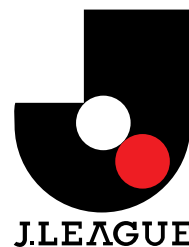


J.LEAGUE NEWS

Official News Letter

vol. **112**

3.Mar.2005



編集・発行
社団法人日本プロサッカーリーグ
ホームページ <http://www.j-league.or.jp>

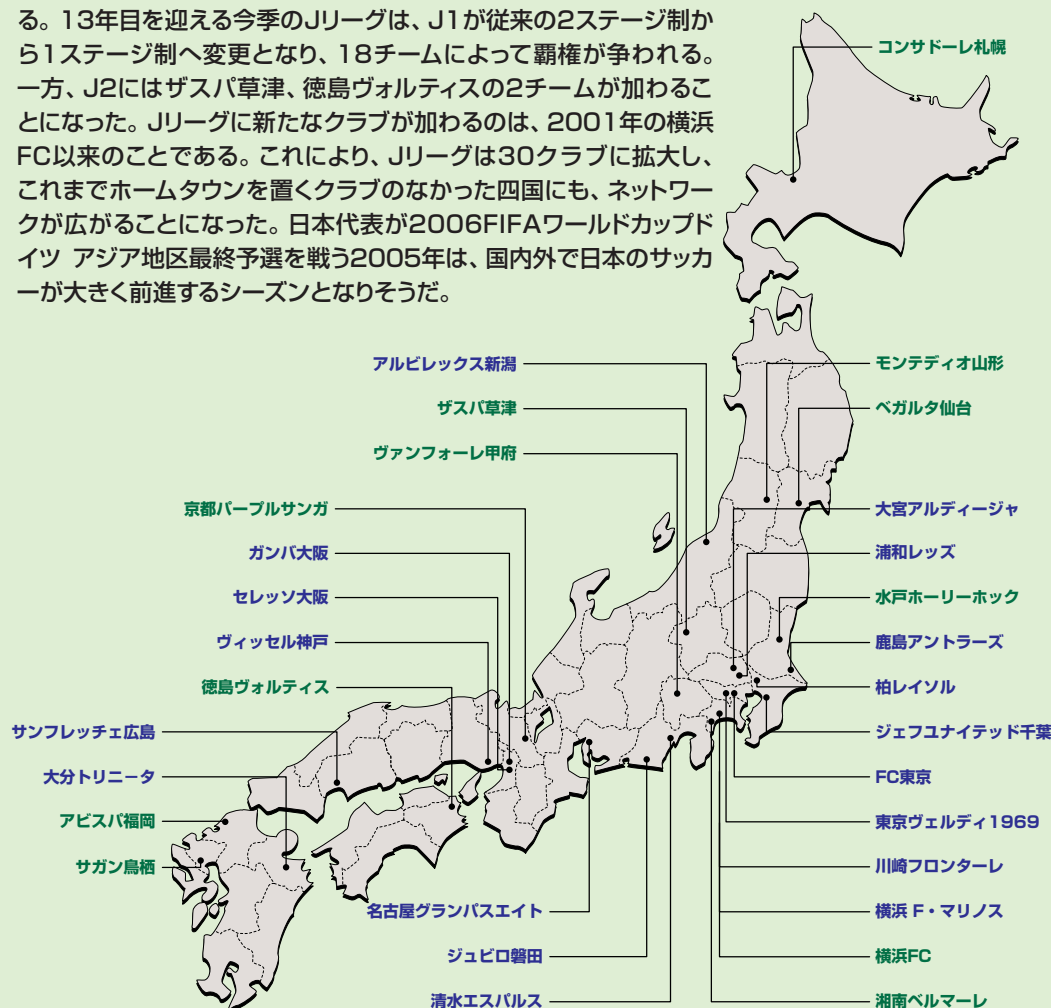
Amazing J.

スポーツで、もっと、幸せな国へ。 **Jリーグ百年構想**

2005シーズンいよいよ開幕へ

新たなチームも加わりJ1、J2合わせて30チーム

2005Jリーグのディビジョン1(J1)とディビジョン2(J2)が、3月5日に開幕。12月3日まで、約9カ月間にわたる戦いがスタートする。13年目を迎える今季のJリーグは、J1が従来の2ステージ制から1ステージ制へ変更となり、18チームによって覇権が争われる。一方、J2にはザスパ草津、徳島ヴォルティスの2チームが加わるようになった。Jリーグに新たなクラブが加わるのは、2001年の横浜FC以来のことである。これにより、Jリーグは30クラブに拡大し、これまでホームタウンを置くクラブのなかった四国にも、ネットワークが広がることになった。日本代表が2006FIFAワールドカップドイツ アジア地区最終予選を戦う2005年は、国内外で日本のサッカーが大きく前進するシーズンとなりそうだ。



J.League Official Sponsors

Calbee

Canon

SUNTORY

JOMO

NicoS

KONAMI

AIDEM

HEIWA

Network Partner

NTT 東日本 | **NTT** 西日本

League Cup Sponsor

ヤマザキナビスコ

Jリーグ百年構想
パートナー
朝日新聞

CONTENTS

2005シーズンいよいよ開幕へ.....1
J1の1ステージ制、ニューフェースの登場など話題豊富な2005シーズン/海外キャンプが倍増/OFFICIAL FANS' GUIDE 2005など発行.....4
横浜F・マリノスは3位 A3 NISSAN チャンピオンズカップ2005.....5
TOPICS ジェフユナイテッド千葉 ホームスタジアム追加/朝日新聞社と「Jリーグ百年構想パートナー契約」締結/2005シーズン追加登録期限/「北九州市長杯争奪 北九州招待サッカー大会」を後援/実行委員選任/スマトラ沖大

地震・インド洋津波災害に義援金/ホームタウン広域化および表記変更/サガン鳥栖営業譲渡決定/阪神大震災復興ロゴマーク掲出/Jリーグ・ゼネラルマネジャー講座開催/フジテレビと「2005ヤマザキナビスコカップ」放送権契約締結/NTT東日本・NTT西日本とネットワークパートナー契約締結/平成17年度収支予算決定/サントリー(株)と「Jリーグスポーツフェローパートナー」事業展開/2005年新人研修会開催.....6-9
Jリーグ・アカデミー海外視察報告 オーストリアサッカー協会.....10

J1



KASHIMA Antlers

クラブスローガン
反撃宣言

監督の抱負

1ステージ制で、拮抗(きっこう)した試合をいかに勝ちに持っていけるかが大きなポイント。攻撃面の改善・充実を図っていきたい。

©J.LEAGUE PHOTOS
トニーニョ セレーゾ 監督

J1



Red Diamonds

クラブスローガン
速く、激しく、けれん味なく
～TAKE OFF TOGETHER NOW!～

監督の抱負

今年もオフェンシブなサッカーを目指す。昨年、あと一つ足りなかった順位を、獲りにいきたい。

©J.LEAGUE PHOTOS
ブッフバルト 監督

J1



OMIYA Ardia

クラブスローガン
**Departure
→走り出す大宮→**

監督の抱負

組織的なディフェンスベースに、攻撃力を補強のポイントとした。J1は守っているだけで勝てるほど甘いリーグではないので、J1初昇格のチームとしてチャレンジする。

©J.LEAGUE PHOTOS
三浦 俊也 監督

J1



JEF UNITED
ICHIHARA CHIBA

クラブスローガン
WIN BY ALL !

監督の抱負

今シーズンもやはり厳しいものになるだろう。ただし、自分のチームを信じている。やれることを全力でやるだけ。何か成し遂げられることを信じている。

©J.LEAGUE PHOTOS
オシム 監督

J1



KASHIWA Reysol

クラブスローガン
走魂宣言
～魂込めて走り勝つ～

監督の抱負

運動量の多いサッカー。中盤を整備し、攻守の切り替えの速いサッカー。チームのキーワードは「走り勝つ」こと。チーム内の競争意識を高めて、「一日一生」、「一戦必勝」の精神で戦い抜く。

©J.LEAGUE PHOTOS
早野 宏史 監督

J1



F.C. TOKYO

クラブスローガン
攻めて取る。攻めて獲る。

監督の抱負

目指すはシンプルでリズム感にあふれた、グラウンド全体をワイドに使うダイナミックなサッカー。昨年以上に決定力を高め、どんな時も攻めて攻めきる攻撃的なサッカーを展開して、タイトルを狙う。

©J.LEAGUE PHOTOS
原 博実 監督

J1



Verdy
FC NIPPON

クラブスローガン
STRONG SOUL

監督の抱負

今年もモダンでスピーディーなサッカーをピッチでお見せし、サポーターが楽しいサッカーを約束する。昨年よりもより高いレベルへと成長し、優勝争いに加わることを目指す。

©J.LEAGUE PHOTOS
アルディレス 監督

J1



KAWASAKI Frontale

クラブスローガン
Frontale Fortissimo
強く激しく!

監督の抱負

J1へ挑む!
一戦一戦チーム一丸となって戦い抜く
全員攻撃、全員守備
昨年作り上げたサッカーの成熟

©J.LEAGUE PHOTOS
関塚 隆 監督

J1



Yokohama F. Marinos

クラブスローガン
**Go the distance!
～やり遂げろ～**

監督の抱負

今年は若手が伸びてきており、満足のいく補強も出来た。また、過密日程を乗り切るためのコンディション管理体制を強化することで、昨年成し得なかったJリーグとアジアチャンピオンズリーグ、両タイトルの獲得にトライする。

©J.LEAGUE PHOTOS
岡田 武史 監督

J1



Aloirex
NIIGATA

クラブスローガン
Run for Niigata !

監督の抱負

頭とボールと人が目まぐるしく動く“Moving Football”をベースに、スピーディー、スベクタフルなサッカーを継続し、さらに魅力的なチームを目指す。

©J.LEAGUE PHOTOS
反町 康治 監督

J1



SHIMIZU S-PULSE

クラブスローガン
かける想い。

監督の抱負

キャッチワード “3R”を掲げ、清水エスパルスを復活(REVIVE)させ、サポーターを歓喜(REJOICE)させるような試合をし、そして周囲から尊敬(RESPECT)されるようなチームを作りたい。

©J.LEAGUE PHOTOS
長谷川 健太 監督

J1



Júbilo
IWATA

クラブスローガン
羅針

監督の抱負

今年の目標は、Jリーグの王座奪還と世界クラブ選手権への出場。ジュビロの伝統的なパスサッカーをベースに、攻守にバランスのとれたチームを作りたい。

©J.LEAGUE PHOTOS
山本 昌邦 監督

J1



NAGOYA Grampus
EIGHT

クラブスローガン
赤鯨魂 Grampus-spirits

監督の抱負

クリエイティビティと攻撃力。組織的なディフェンス力を向上し、質の高いプレーにつなげる。フレッシュな若手とベテランのバランスのとれたチーム作り。

©J.LEAGUE PHOTOS
ネルシーニョ 監督

J1



GAMBA
OSAKA

クラブスローガン
一熱き青の力で、共に頂点へー

監督の抱負

鋭く、速くというコンセプトを持ってチームを作りたい。
強豪チームに比べると厚みのある戦力ではないが、チームとして戦い方を全員に浸透させ、ペナルを合わせて全力を尽くす。昨シーズンの年間3位以上の成績、2つ上を目指して戦う。

©J.LEAGUE PHOTOS
西野 朗 監督

J1



Cerezo
OSAKA

クラブスローガン
日々進化

監督の抱負

「闘志なき者は去れ」。自分自身との闘い、チームメートとの闘いを制したものがメンバーに入り、試合終了まで闘う姿勢を貫き、前へ前へと進んでいく攻撃的なサッカーを目指す。

©J.LEAGUE PHOTOS
小林 伸二 監督

J1



VISSEL

クラブスローガン
FIST!!(拳/こぶし)

監督の抱負

ダイナミックでスピード感あるサッカーの追求。90分間あきらめない「戦うメンタリティー」で昨年の得点(50点)を上回り、失点(55点)を確実に減らす。

©J.LEAGUE PHOTOS
松永 英機 監督

J1



SANFRECCE
HIROSHIMA FC

クラブスローガン
Road to Champ 2005
Creative Football, Burning Spirit.
「創造力にあふれ、燃える熱い心で優勝を目指す!」

監督の抱負

攻撃サッカー。意図的かつ積極的にボールを奪い、多くの選手が流動的にボールに絡み、積極的にゴールを狙う。アグレッシブなサッカーを貫き、優勝争いに絡む。

©J.LEAGUE PHOTOS
小野 剛 監督

J1



Trinita

クラブスローガン
TOGETHER & ENJOY

監督の抱負

J1に上がって3年目。今年は「5年以内に優勝」という目標に少しでも近づけるよう、まず選手の意識に変化を持たせたい。
J11年目は守備のチーム、2年目は攻撃のチームと呼ばれたが、3年目の今年は攻撃的でありながらも攻守のバランスのとれた魅力あるチームを目指す。

©J.LEAGUE PHOTOS
皇南官 監督

J2



Consadole
SAPPORO

クラブスローガン
真っ勝負!

監督の抱負

昨年のテーマ「アクションサッカー」を発展させた形で、ボールだけでなく、周りの選手たちが運動して動く(ムービング)ことにより、更にアグレッシブなサッカーを作っていく。「より速く・より強く・より正確に」相手ゴールを目指す。

©J.LEAGUE PHOTOS
柳下 正明 監督

J2



VEGALTA
SENDAI

クラブスローガン
熱く 楽しく そしてひとつに

監督の抱負

どんな時もチームを向上させるために100%の努力を重ねていきたい。選手がそれぞれの個性を発揮し、楽しみながらも勝利にこだわってプレーしていく、そんなスタイルを確立させ、悲願のJ1再昇格を果たしたい。

©J.LEAGUE PHOTOS
都並 敏史 監督

J2



Montedio
YAMAGATA

クラブスローガン
INNOVATION
我々が変わり、そして変えていく

監督の抱負

Aggressive Play 積極的プレーをする
Accurate Skill 正確な技術と判断を
Alertness 追求する
隙の無い状態にする

©J.LEAGUE PHOTOS
鈴木 淳 監督

J2



FC Mito Hollyhock
IBARAKI

クラブスローガン
STRONG HEART

監督の抱負

戦う強い意志を持って44試合に挑む。前田体制3年目に当たり、今までのトレーニングから変化のあるものを取り入れ、フィジカル・メンタル両面の強化を積極的に行う。豊富な運動量でより攻撃的に点を取りに行く。

©J.LEAGUE PHOTOS
前田 秀樹 監督

J2



THE SPA
KUSATSU

クラブスローガン
IMPACT!!

監督の抱負

よりアグレッシブに攻撃的なサッカーを目指す。今シーズンは9位以内を目標に掲げ、勝利を目指す。

©J.LEAGUE PHOTOS
手塚 聡 監督

J2



YOKOHAMA FC

クラブスローガン
MAKE PROGRESS

監督の抱負

個々の能力のベースアップを図り開ける集団に。昨シーズンの22引き分けを勝ちに変えるため、負けるリスクを覚悟してでも、勝利を目指す。44試合進歩しながら進んでいきたい。

©J.LEAGUE PHOTOS
足達 勇輔 監督

J2



Bellmare

クラブスローガン
Be Fighter 闘士激流

監督の抱負

J1昇格争いでもなく、J2・J3位でもなく、あくまでも2位以内を狙う。
戦う姿勢を持ち、コンパクトな守備でボールを奪い、速い攻守の切り替えから、ゴールを意識した積極的な攻撃を仕掛ける。「attitude works magic-よい姿勢はマジックをもたらす」

©J.LEAGUE PHOTOS
上田 栄治 監督

J2



VENTFORET
KOFU

クラブスローガン
One Play One Game

監督の抱負

「サッカーはエンターテインメントである」。シュートを打って終わりではない。「アウト・オブ・プレーになったらそれで終わり」では駄目。大切なのは攻守両面において「90分間プレーし続ける」こと。具体的には「20勝、勝点70」を目標にし、向上心を持って戦う。

©J.LEAGUE PHOTOS
大木 武 監督

J2



Purple Sanga

クラブスローガン
ONE for TEAM
すべては勝利のために

監督の抱負

「ONE for TEAM-すべては勝利のために」。3つの理念(1. 勝利(J1昇格)、2. アグレッシブなゲーム内容、3. フェアプレー)を掲げ、年間を通して素晴らしいゲーム(シーズン)を見せたい。

©J.LEAGUE PHOTOS
柱谷 幸一 監督

J2



TOKUSHIMA VORTIS

クラブスローガン
徳島ヴォルティス元年

監督の抱負

1年目として、何事にもポジティブな意識と最後まであきらめないプレー。①パスの精度を高め、ボールが速く動くサッカー。②中盤をコンパクトにし、攻守においてバランスよく戦う。③Jリーグを通じ、徳島のスポーツ文化の発展に協力していきたい。

©J.LEAGUE PHOTOS
田中 真二 監督

J2



Avispa
FUKUOKA

クラブスローガン
挑戦 Try it again to J1!

監督の抱負

ポゼッションプレーとダイレクトプレーのバランス
・全員攻撃、全員守備
・J1昇格

©J.LEAGUE PHOTOS
松田 浩 監督

J2



SAGAN TOSU

クラブスローガン
夢劇団

監督の抱負

「サッカーは多くの人に夢と感動を与える存在でなければならない」
公式戦44試合を通じてスタミナ負けしないチーム作り。どこからでも点の取れる攻撃力。守備陣の連携を強化した鉄壁の守り。

©J.LEAGUE PHOTOS
松本 育夫 監督

J1の1ステージ制、 ニューフェースの登場、長丁場の戦いなど

話題豊富な2005シーズン

J1の1ステージ制採用、クラブ数の増加、新たな地域からのJ2への参入など、今季のJリーグはその様相が大きく変わる。真のチャンピオンを決めるリーグ戦には多くのハイレベルな試合が期待され、トップクラスの選手の強化に貢献することだろう。また、Jリーグの理念を掲げるクラブが全国に広がることは、サッカーの普及だけでなく、スポーツ文化の浸透という意味でも、非常に意義深い。

今季のJ1が従来と大きく変わるのは、1ステージ制の採用だ。

1996年に1ステージ制で開催された例はあるが、1993年にJリーグがスタートして以来、2ステージ制が基本だった。両ステージとも1回戦総当たりリーグ戦が行われ、それぞれの優勝チームが異なる場合は、ホーム&アウェイ方式のサントリーチャンピオンシップによって、年間チャンピオンが決められた。

1ステージ制もホーム&アウェイ方式だが、2回戦総当たりリーグ戦となる。2ステージ制では年間の通算勝点にかかわらず、サントリーチャンピオンシップの勝者が年間チャンピオン、敗者が年間成績2位となったが、今季は全日程終了時の勝点によって順位が決まる。同勝点の場合は、①得失点差②総得点数③当該チーム間の対戦成績(勝点、得失点差、総得点数の順)④抽選、の順により決定される。

川崎フロンターレ、大宮アルディージャの昇格によって、J1のクラブ数は16から18へと増加する。各チームのリーグ戦における試合数も30から34に増え、選手、チームには、これまで以上の身体的、精神的な強さが要求される。さらに、1シーズンを戦い抜くための態勢づくりなど、クラブの総合力も問われることになるだろう。

一方、従来どおり4回戦総当たりリーグ戦(ホーム&アウェイ方式)のJ2には、徳島ヴォルティス、ザスパ草津というニューフェースが登場する。Jリーグの新規参入クラブは、2001年の横浜FC以来だ。徳島はJリーグ史上初めて、四国にホームタウンを置くクラブ。これにより、Jリーグのクラブは北海道、本州、四国、九州に分布することになった。草津も、群馬県からは初めてのJクラブである。44試合を戦う長丁場は、今季もし烈な戦いが展開されそうだ。

J1が18クラブ、J2が12クラブで実施さ

れる今季のJリーグだが、リーグ戦終盤には昇格・降格のドラマも待っている。J1の年間順位が17位、18位のクラブは、J2へ降格。これに代わり、J2の1位、2位のクラブは、J1への昇格を果たす。

さらに、J1の16位とJ2の3位による入れ替え戦(ホーム&アウェイ方式。第1戦がJ2クラブのホーム、第2戦がJ1クラブのホーム)も実施される。ただし、入れ替え戦に出場するJ2のクラブは、J1クラブの資格要件を満たし、今年10月のJリーグ理事会において承認を得ていなければならない。

今年は2006FIFAワールドカップドイツ アジア地区最終予選が行われ、日本のサッカー界にとっては非常に重要なシーズンだ。Jリーグは数多くの選手を日本代表に送り出す。日本代表の最終予選突破を最大限にサポートするのは言うまでもない。

また、30ものクラブが全国に広がることは、Jリーグの理想を実現するための拠点の増加につながる。だれもがいつでも、さまざまなスポーツを楽しめる環境づくりという「Jリーグ百年構想」を、さらに推進するための足場固めにも大切な1年となるだろう。

海外キャンプが倍増

トルコ、ブラジル、グアムなどへ11チーム

今季のJリーグは、3月5日に開幕する。2002FIFAワールドカップ™の年の3月3日に次ぎ、史上2番目に早いスタートだ。そのため、1月10日を過ぎると各チームは次々に始動し、国内外でのキャンプに入った。

今年の特徴は、海外キャンプ実施を発表したチームが12もあったことだ。昨年の5チームから一気に増加。ただし、浦和レッズは2月中旬に予定していたタイでのキャンプを中止し、国内(熊本県)に切り替えた。スタッフの現地事前調査により、種々の問題点が明らかになったためだという。

Jリーグ3連覇を目指す横浜 F・マリノスは、オーストラリアのアデレードで汗を流し、現地チームと練習試合を重ねるなど、2月13日から始まったA3 NISSANチャンピオンズカップにも備えた。

ブラジルでキャンプを行ったアルビレックス新潟



アルビレックス新潟提供

異色ともいえるキャンプ地となったのは、ジェフユナイテッド千葉のトルコ。地中海沿岸のアンタリアは、かつてオシム監督が訪れ、好印象を抱いた土地だという。また、アルビレックス新潟は昨年に続き、ブラジルでキャンプ。グアムには、昇格した大宮アルディージャを含めJ1の6チームが訪れた。

「国内キャンプ組」は、温暖なイメージのある南九州を選んだチームが多かった。だが、2月1日には異例の大雪に見舞われ、スケジュールに支障をきたすアクシデントもあったようだ。

『J.LEAGUE OFFICIAL FANS' GUIDE 2005』 『J.LEAGUE YEARBOOK 2005』 発行



●『J.LEAGUE OFFICIAL FANS' GUIDE 2005』
J1、J2全30クラブのオールカラー公式ガイド。272ページ、A5版並製
定価:1,500円(本体1,429円)



●『J.LEAGUE YEARBOOK 2005』
Jの歴史を凝縮! 2004年シーズンまでの全記録を網羅。488ページ、A5版並製
定価:2,000円(本体1,905円)

発行:(社)日本プロサッカーリーグ
発売:(株)コナミメディアエンタテインメント
問い合わせ先:コナミメディアエンタテインメント・ブックセンター
(受付時間:10:00~16:00土日祝祭日除く)
TEL03-5458-6436 FAX03-5458-6432

横浜 F・マリノスは3位、優勝は水原サムスン

A3 NISSAN CHAMPIONS CUP 2005

韓国、日本、中国のリーグチャンピオンなどが参加して行われる「A3 NISSAN チャンピオンズカップ2005」が2月13～19日、韓国の済州ワールドカップ競技場を舞台に開催された。日本からは2004Jリーグ年間チャンピオンの横浜 F・マリノスが昨年に続き出場し、3位となった。優勝は昨季のKリーグ(韓国)チャンピオン、水原サムスン ブルーウィングス。2位に浦項スティーラース(韓国)、4位は深圳健力宝(中国)。



水原サムスン ブルーウィングス

東アジアの3カ国のリーグチャンピオンに、開催国からもう1チームを加え、4チームによる1回戦総当たりリーグで争われる大会は、一昨年から始まり、今回が3回目の開催となる。第1回は東京で行われ、鹿島アントラーズが優勝。昨年は中国の上海が会場となり、城南一和(韓国)がタイトルを獲得した。

勝点1差で準優勝だった昨年に続く出場の横浜 F・マリノスは、FWの久保竜彦や安貞桓、DFの松田直樹、中澤佑二をはじめ、故障のためプレーのできる状態にない主力選手が多かった。済州島入りした後も、負傷や体調を崩す選手があり、厳しい戦いを強いられた。

初戦の相手は、浦項スティーラース。昨年12月のKリーグのチャンピオンシップで、PK戦の末に水原サムスン ブルーウィングスに惜敗したチームだ。キックオフの3分後、FW清水範久が相手のパスをカットし、すばやドリブルから先制シュート。だが、「疲れが出た」(岡田武史監督)という後半に同点とされ、1-1



©J.LEAGUE PHOTOS

熊林親吾



©J.LEAGUE PHOTOS

大島秀夫

順位	チーム	水原	浦項	横浜	深圳	勝点	勝	引分	敗	得点	失点	得失差
1	水原サムスン ブルーウィングス	—	2-2	3-1	3-1	7	2	1	0	8	4	4
2	浦項スティーラース	2-2	—	1-1	2-0	5	1	2	0	5	3	2
3	横浜 F・マリノス	1-3	1-1	—	2-0	4	1	1	1	4	4	0
4	深圳健力宝	1-3	0-2	0-2	—	0	0	0	3	1	7	-6

と引き分けた。

浦項戦の後、「勝ってチャンピオンになりたい」と岡田監督は口にしたが、続く深圳健力宝との第2戦にチームは勝利への意欲をみなぎらせた。相手の激しい当たりにもよく耐え、後半開始早々にMF上野良治のゴールでリードを奪う。さらに、63分には新加入のMF熊林親吾が、見事なボレーシュートで加点。この2得点をアシストしたMF田中隼磨のプレーも光り、2-0の快勝を収めた。

各チームが2試合を終え、最終戦で対戦する横浜FMと水原が勝点、得失点差とも並んだ。だが、総得点数では水原が上回っており、横浜FMが優勝するためには、水原を破ることが必要となった。

その水原との一戦は、15分に先制を許したが、4分後に追いつく。田中の正確なクロスを胸でコントロールしたFW大島秀夫が、左足で鮮やかなハーフボレーのシュートを突き刺した。大島は昨季、J2のモンテディオ山形に所属し、日本人選手最多の22得点をマークしたストライカーだ。

しかし、「ミスから失点し、集中力が切れた」(岡田監督)という後半に2点を献上し、1-3の敗戦。第2試合で浦項が深圳に2-0の勝利を収めたため、横浜FMは3位で大会を終了した。

残念ながら、成績の上では昨年を下回った横浜FMだが、収穫は十分にあった



横浜 F・マリノス

©J.LEAGUE PHOTOS

といえるだろう。岡田監督が「日ごろ、試合に出られない選手たちは、素晴らしい経験ができたと思う」と言うように、主力選手の多くが欠場する中、彼らが国際試合の雰囲気と厳しさを体験できたことは、選手にとってもチームにとっても大きな財産となるはずだ。

特に今季は、内に「Jリーグ3連覇」、外に「AFCチャンピオンズリーグ優勝」という目標を掲げている以上、選手層の充実が不可欠となる。DF栗原勇蔵のように、レギュラー陣を脅かすような活躍を披露した選手もいた。また、新加入の選手たちも、ゴールを記録するなどアピール。リハビリ中の選手が戦列に復帰すれば、定位置争いは激化し、レベルの底上げが期待できそうだ。



©J.LEAGUE PHOTOS

上野良治

ジェフユナイテッド千葉 ホームスタジアム追加

Jリーグは1月25日に開催した理事会で、「千葉市蘇我球技場」をジェフユナイテッド千葉のホームスタジアムとして追加登録することを承認した。なお、従来の「市原臨海競技場」はこれまでどおりホームスタジアムとして使用する。

■千葉市蘇我球技場

所在地：千葉市中央区川崎町地内

主要用途：サッカー専用競技場

収容人数：18,500人

朝日新聞社と 「Jリーグ百年構想 パートナー契約」締結

Jリーグは1月25日に開催した理事会で、朝日新聞社と「Jリーグ百年構想パートナー契約」を更新することを決定した。内容はJリーグ理念の具現化に向けた各種活動に対する広報支援や啓蒙活動など。契約期間は2005年の1年間。

2005シーズン 追加登録期限

2005J1リーグ戦、J2リーグ戦およびヤマザキナビスコカップの出場資格を得るための選手追加登録期限が以下のとおり決定した。J1リーグ戦は、1ステージ制への移動にとまない、J2リーグ戦同様、シーズンの4分の3が追加登録期限となった。

- J1リーグ戦 2005年9月30日(金)
- J2リーグ戦 2005年9月30日(金)
- ヤマザキナビスコカップ 2005年8月26日(金)

「北九州市長杯争奪 北九州招待サッカー大会」を後援

Jリーグは、「第9回北九州市長杯争奪 北九州招待サッカー大会」を後援した。アビスパ福岡とサンフレッチェ広島を招待し、北九州市におけるサッカー振興と競技力の向上を図ることを目的に2月19日、20日に開催された。

実行委員選任

Jリーグは1月25日および2月15日に開催した理事会で、以下のクラブの実行委員変更、新任および参与選任を決定した。

■1月25日理事会承認

○実行委員選任(変更)

クラブ名	変更前	変更後
大宮アルディージャ	児玉 雅俊	中村 博 (なかむら ひろし)
	エス・ティ・ティ・スポーツコミュニティ(株)	エス・ティ・ティ・スポーツコミュニティ(株)
	前代表取締役社長	代表取締役社長
ジュビロ磐田	松崎 孝紀	右近 弘 (うこん ひろし)
	(株)ヤマハフットボールクラブ	(株)ヤマハフットボールクラブ
	前代表取締役社長	代表取締役社長

○実行委員選任(新任)

ザスバ草津		
賢持 宏昭 (けんもち ひろあき)	(株)草津温泉フットボールクラブ	代表取締役
徳島ヴォルティス		
高本 浩司 (たかもと こうじ)	徳島ヴォルティス(株)	代表取締役社長

■2月15日理事会承認

○実行委員

実行委員		
クラブ名	変更前	変更後
サガン鳥栖	古賀 照子	井川 幸広 (いかわ ゆきひろ)
	前(株)サガン鳥栖	(株)サガンドリームス
	代表取締役社長	代表取締役社長

○参与

参与	
本間 良一 (べがлта仙台 前実行委員)	
1999年7月21日～2002年1月22日 2004年1月20日～2004年5月18日(在任2年10カ月)	
古賀 照子 (サガン鳥栖 前実行委員)	
2002年4月15日～2005年1月31日(在任2年9カ月)	

スマトラ沖大地震・ インド洋津波災害に義援金

Jリーグは1月25日の理事会で、昨年12月26日に起きたスマトラ沖大地震・インド洋津波災害に対する支援として、義援金1,000万円を拠出することを決定した。拠出時期は2005年2～3月中、また拠出先は財団法人日

本サッカー協会を通してAFCもしくはFIFAのルートにより被災地国サッカー協会宛となる予定。

同時にJリーグ各クラブのホーム開幕戦において義援金募金活動を行うことも決定した。

ホームタウン広域化 および表記変更

Jリーグは1月25日に開催した理事会で、横浜 F・マリノスがホームタウンを広域化し、横浜市に加え、2005シーズンから横須賀市もホームタウンとすることを承認した。横浜 F・マリノスは、1987年に横須賀市夏島町追浜地区にサッカースクールを開講し、現在570人強の小中学生を指導している。ほか、横須賀市サッカー協会と連携し「指導者講習会」、「巡回指導」等の活動も実施している。

また、2月15日に開催した理事会で、ヴァンフォーレ甲府および徳島ヴォルティスのホームタウン表記変更を承認した。これは、ホームタウン地域の市町村合併によるもの。

横浜 F・マリノス ホームタウン

変更前	変更後
横浜市	横浜市、横須賀市

ヴァンフォーレ甲府 ホームタウン

変更前	変更後
甲府市、韮崎市を中心とする25市町村	甲府市、韮崎市を中心とする13市町村

徳島ヴォルティス ホームタウン

変更前	変更後
鳴門市、徳島市、松茂町、板野町、北島町、藍住町、美馬町を中心とする全県	鳴門市、徳島市、美馬市、松茂町、板野町、北島町、藍住町を中心とする全県

サガン鳥栖 営業譲渡決定

Jリーグは1月25日の理事会で、2月1日付で株式会社サガンドリームス(譲受人)が株式会社サガン鳥栖(譲渡人)より、クラブチーム「サガン鳥栖」の営業権を譲り受けることを承認した。

阪神大震災復興 「震災10年神戸からの発信」 ロゴマークをユニフォーム掲出

ヴィッセル神戸は、阪神大震災から10年を迎えるにあたり、同クラブが「震災10年神戸からの発信」のロゴマークを2005年公式戦ユニフォーム右袖に掲出することを決定した。ヴィッセル神戸のホームタウン神戸市は、国内外からの阪神大震災復興支援に対し、『震災10年 神戸からの発信』事業を実施しており、ヴィッセル神戸も被災地のチームとしてこの事業に賛同し、啓蒙活動に協力することになったもの。ヴィッセル神戸は、阪神大震災発生後、1997～1998年シーズンに「明日へ神戸!!」ロゴを掲出した実績がある。

Jリーグ・ゼネラルマネジャー 講座を開催

Jリーグは1月13日、14日の両日、ゼネラルマネジャー講座をJFAハウス(東京都)で開催した。

18クラブから20名が参加した。

<1月13日>

「スポーツマーケティング」

原田宗彦 (Jリーグ経営諮問委員、大阪体育大学 教授)

第1部では、マーケティングの概念のおさらいを目的とした基礎講義、第2部では、事例共有等を目的としたグループワークが行われた。

「NFLのブランド戦略」

町田 光 (NFL Japan マネージング・ディレクター 代表取締役)

NFL(アメフト)は巨大ビジネスでありながら、自らの存在を「社会の公共財」と位置付けている。NFLのブランド戦略の中核を担うのは地域貢献活動(コミュニティー・マーケティング活動)であり、その概念と事例を学んだ。

<1月14日>

「マネジメント・ゲーム」

宮崎英寿(WOW Sports 代表取締役)、横山文人(亜細亜大学経営学部 専任講師)

ビジネスシミュレーションゲーム「BizLAUNCH(ビズローンチ)」を使った研修を行った。「BizLAUNCH」は、月旅行事業というSF的舞台で、MBA理論に基づいた企業経営のノウハウ(資金調達、事業戦略の策定、商品開発、広告宣伝、人材の確保と教育、キャッシュフローの管理、トラブルへの対応など)と、論理的意志決定能力が身につく本格的コンピューター・シミュレーションゲーム。

フジテレビと 「2005ヤマザキナビスコカップ」 放送権契約締結

Jリーグは2月15日の理事会で、JリーグおよびJリーグ映像株式会社が、株式会社フジテレビジョンと『Jリーグヤマザキナビスコカップ』の地上波全国、BS波、CS波、ケーブルテレビ放送権契約を締結することを決定した。契約期間は、2005年シーズンから2006年シーズンの2シーズン。

NTT東日本／NTT西日本と ネットワークパートナー契約締結

Jリーグは2月15日の理事会で、東日本電信電話株式会社(NTT東日本)、西日本電信電話株式会社(NTT西日本)の2社と、ネットワークパートナー契約を締結することを決定した。契約期間は、2005年の1年間。

平成17年度収支予算決定

Jリーグは2月15日の理事会で、平成17年度収支予算を決定した。

	2005年度予算(a)	2004年度見込(b)	前年見込対比(a-b)
【収入の部】			
1.入会金・会費	960	980	▲20
2.放送権料	4,903	4,975	▲72
3.協賛金	3,995	4,329	▲334
4.商品化権料	500	623	▲123
5.Jリーグ主管試合入場料	248	322	▲73
6.その他	476	555	▲79
収入合計	* 11,083	11,784	▲701
【支出の部】			
1.事業費			
リーグ運営経費	2,649	2,538	111
クラブへの配分金	5,755	6,836	▲1081
その他	780	841	▲61
2.管理費	1,675	1,492	183
3.その他	124	19	105
支出合計	* 10,982	* 11,727	* ▲745

* クラブへの配分金に含まれるものは以下のとおり:公式試合出場料、放送権料、商品化権料

* 四捨五入により一部合計が合わないことがあります。

* 単位:百万円

サントリー株式会社と「Jリーグスポーツフェローパートナー」事業展開

Jリーグは、2005年4月からサントリー株式会社を「Jリーグスポーツフェローパートナー」として、未来を担う次世代を育成することを

目的に、様々な活動を展開していくことを決定した。

■「Jリーグスポーツフェローパートナー」について

Jリーグスポーツフェローパートナーとは、「未来を担う次世代の育成」を目的とした、JリーグとJリーグオフィシャルスポンサーであるサントリー株式会社とのパートナーシップ。両者はスポーツを通じて多くの人々とコミュニケーションをはかることにより、特に子供たちに「スポーツ」を通じた、心身の健全な発達を促進し、さらには「人間教育」に寄与するための様々な活動を展開する。また、「Jリーグ・アカデミー」と連携し、そのノウハウを活用するだけでなく、「Jリーグ・アカデミー」を支援し、活動の場を広げることも視野に入れ、小学生から中学・高校生を対象に、多年代の交流を深める活動も展開する。

■「Jリーグスポーツフェローパートナー」の活動について

活動として、「Jリーグ・アカデミー スポーツフェローゼミナール Supported by サントリー」と、「サントリー・Jリーグ スポーツクリニック」などを実施する。

●Jリーグ・アカデミー スポーツフェローゼミナール

Supported by サントリー

「次世代の育成」の担い手である中・高校生を対象に、スポ

ーツに関わることの魅力や価値を知り、スポーツが社会性と人間性を育むことの体験を目的として開催する。スポーツ界のトップアスリートたちにスポーツで得た様々な経験について語ってもらい、また、Jリーグ・アカデミーの活動を紹介しながら、遊びやスポーツを通じて子供たちと接することの楽しさや、そこから学び得る魅力を感じてもらえる機会となるプログラムを用意する。参加者は広く一般から募集。年1回開催予定で、2005年度は4月4日(月)、サントリーホール・小ホールで開催する。

●サントリー・Jリーグ スポーツクリニック

2003年から実施している「サントリー・Jリーグ スポーツクリニック」をさらに発展させ、Jリーグ・アカデミー監修のもと、Jクラブの協力を得て、楽しみながらスポーツに取り組むきっかけを子供たちに提供することを目的に、Jクラブのホームタウンを中心に開催する。2005年4月から11月まで毎月1回開催予定。



04年のスポーツクリニックから(甲府)

©J.LEAGUE PHOTOS

2005年新人研修会開催

Jリーグは2月4日、5日の両日、JFAハウス(東京都)で新人研修会を開催した。参加選手数は117名。新人選手たちは、研修会の合間を縫って、JFAハウスや日本サッカーミュージアムの見学も行った。所属クラブに戻ったあとには、ボランティア活動(公式試合の運営ボランティア

と地域ボランティア等)を実施する。

慣れないスーツを着て座り続け、2日間缶詰め状態にされた選手たちにとってはつらい研修会のもようであったが、提出されたレポートには「プロ選手としての自覚が生まれた」「自己管理の意識が高まった」といった意見が多かった。



©J.LEAGUE PHOTOS

山本 浩氏による講義



©J.LEAGUE PHOTOS

講義を受ける選手たち

プログラム	講 師
開会あいさつ	鈴木 昌 (Jリーグ チェアマン)
Jリーグについて	藤口光紀 (Jリーグ理事)
キャリアサポートセンターについて	重野弘三郎 (Jリーグキャリアサポートセンター)
Jリーグ選手協会について	加藤富朗 (Jリーグ選手協会事務局長)
選手契約制度	高野純一 (Jリーグ選手協会 事務局)
totoについて	両角晶仁 (日本スポーツ振興センター)
メンタルマネジメント	立谷泰久 (スポーツメンタルトレーニング指導士)
危機管理	小竹伸幸 (Jリーグ理事)
テレビ・ラジオ対応	山本 浩 (NHK エグゼクティブアナウンサー／解説主幹)
新聞・雑誌対応	吉野比洋児 (Sente Communications 代表取締役社長)
ファン・サポーター・サービス	佐藤仁司 (浦和レッズ 広報担当)
ルールテストおよびルールテスト解説	岡田正義 (スペシャルレフェリー)
フェアプレイ	岡田正義 (スペシャルレフェリー)
税金	白井直樹 (公認会計士・税理士・速記士)
フィジカルコンディショニング	池田誠剛 (横浜 F・マリノス フィジカルコーチ／Jリーグ技術委員)
閉会あいさつ	藤口光紀 (Jリーグ理事)

Jリーグ・アカデミー海外視察報告

第2回 オーストリアサッカー協会

Jリーグ・アカデミー
プロジェクトリーダー 山下 則之

十数年間も世界のトップクラスの大会に出場できない中で、オーストリアは2008年のEUROをスイスと共同開催することになった。

オーストリアは、この大会で上位に目標を定め、「チャレンジ08」プロジェクトを立ち上げた。国の代表強化を最終目標として、99年から本格的に選手育成プログラムをスタートさせた。



強化育成システムは、表1のピラミッド構造からなる。「キッズフットボール」では、125時間のCライセンス＋150時間の特別コースを設定し、コーチライセンスの取得を義務付けた。義務教育の年齢である「LAZ」は、全国29カ所にトレーニングセンターを開設。午前中の練習も可能にするため学校と連携した。学校へはサッカー協会からコーチの派遣と活動費用年間約300万円の援助をしている。「アカデミー」はエリート教育の年代として、クラブ5カ所に地域と学校8カ所(計13カ所)を認定している。協会は、アカデミーに2人のコーチ派遣と活動費用年間約400万円を援助している。練習は、学校との連携で午前中に行い、試合は13のアカデミーでリーグ戦を行っている。ユース年代の代表選手はこのアカデミーから選ばれる。所属選手は全員、スポーツ科学センター(IMS)で年間2回(1月・7月)のフィジカル測定を義務付けている。

大人の категорияは、アマチュアからナショナルチ

ムまであり、プロ1部リーグは、50%以上を外国籍選手が占めているため、ナショナルチームの構成には苦慮している。対応策として、プロ2部リーグと連携し、2部リーグを若手選手育成の場として、U-23の選手3人、U-21の選手3人以上登録することを義務付け、試合では、U-21の選手を必ず1人以上出場させなければならない規約を制定している。

オーストリアは、選手育成システムをスタートさせてから5年目で、トレーニングとコンディショニング・教養を重視し、一部の理解者たちの協力で、モデルケースとして実践してきた。サッカー協会育成担当のMr. Paul Giudovatzとプロリーグ事務局長Mr. Goorg Panglによると、さらに全国に拡大し定着するまでは、サッカー協会とプロリーグ協会が協調・協力しながら数年の頑張りが必要であるとのこと。

協会と学校との連携

①【ボルガストラープ】
12～14歳の中学校訪問

ボルガストラープは、全国29カ所のトレーニングセンターの一つとして認定されているオーストリア・ウィーン(プロ1部の下部組織)が提携している公立中学校である。サッカーで入学した生徒は、体育の授業としてサッカー協会派遣コーチの指導で週2回の練習を行う。これは、クラブとサッカー協会と学校が連携したモデルケースである。現在は学校長がサッカーの理解者であるため、このシステムが成立しているが、サッカー協会は、学校長が変わったときの継続について危惧している。

②【フランク ストロナツチ】
15～18歳の私立工業高等学校訪問

2000年にオーストリアサッカー協会がモデルケースとして、アカデミーに認定した学校(生徒数1,600名)。サッカー選手の定員は、15～18歳まで4学年各20名を定



スポーツ科学センター

員として、全寮制で活動しているが、年代が上がるにつれ、途中でサッカーをやめても寮生活を続けながら、高校を卒業することが可能である。サッカーを続けながら高校を卒業するには、一般学生が3年のところサッカー選手は4年かかる。

施設は天然芝3面・人工芝1面・屋内練習場・トレーニングジム・宿泊施設・メディカルルームが整備されている。

スタッフはコーチ・GKコーチ・ドクター・トレーナー・マッサージ・教育担当と豊富に揃え、これらにかかる年間の育成費用は2億5000万円である。初期投資の20億円を含め全てオーナーであるストラック氏が負担している。過去には、3名のプロ選手を輩出している。



フランク ストロナツチ



**totoの収益による助成が、
日本のすべてのスポーツをアシストしています。**

事業区分	件数	金額(億円)
クラブハウス、芝生化等の施設整備助成	72	13.9
総合型地域スポーツクラブの活動助成	783	14.8
地方公共団体が行うスポーツ活動助成	870	6.8
将来性のある選手の発掘、育成等への助成	93	4.2
スポーツ団体が行うスポーツ活動助成	1056	18.4
国際競技大会開催助成	8	24
優秀なスポーツ選手、指導者への個人助成への充当	—	5.9
合計	2882	88

totoは、スポーツ振興のために、これまで約88億円の助成を行いました。

独立行政法人 日本スポーツ振興センター スポーツ振興事業部

<http://www.naash.go.jp/toto>


 19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。



写真提供: © J.LEAGUE PHOTOS
© アルビレックス新潟



「Jリーグニュース」は100%再生紙を使用しています。